

令和３年度 学校経営計画に対する中間評価実績書

石川県立翠星高等学校

No. 1

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	達成度判断基準	判 定	集計結果	備考
1 地域の食や農業、環境問題に積極的に関わり、地域の活性化に貢献する意欲と態度を育成する。	① ふるさと石川の食・農・環境について関心を持ち、理解を深めるための講演会、研究発表会等を実施する。	全職員（総務） 各年次 各コース 各研究会	【成果指標】 ふるさと石川の食・農・環境について関心が高まっている。	いしかわの食・農・環境について関心が高まった生徒の割合は A ９０％以上 B ７０％以上 C ５０％以上 D ５０％未満	C	いしかわの食・農・環境について関心が高まった生徒が56.4%	昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、郷土の理解を深めるための講演会を実施することができなかったため、生徒の意識は昨年度とあまり変化はなかった。農業クラブの意見発表会やプロジェクト発表会については、オンラインによる開催を試みたが視聴している生徒にとっては、食、農、環境に対する意識を大きく変えることはできなかった。年度後半には、各コース、分野単位の講演会等を数多く企画し、農業高校生として、郷土の食、農、環境に関心を深めていきたい。
	② 校内環境美化に積極的に取り組む。	保健課 特活課 各年次 各分掌 各コース	【成果指標】 校内の環境・美化に積極的に取り組んでいる。	校内の環境美化に積極的に取り組んでいると答えた生徒が A ９０％以上 B ７０％以上 C ５０％以上 D ５０％未満			「しっかりと取り組んでいる」「ある程度取り組んでいる」と回答した生徒は83.2%で、昨年度中間期とほぼ同じ割合であり、昨年度からの昼食後の清掃を中心とした取り組みの定着、コロナ禍での清潔意識の向上が要因であると考ええる。例年最終期には低下がみられるのが課題であるが、せっかく身についた環境美化への取り組みや意識が低下しないよう、また「全く取り組んでいない」4%の生徒が関心を持って取り組めるよう、全教職員の協力のもと校内環境美化活動に取り組んでいきたいと考える。
2 学習意欲の向上と進路に応じた学力の定着を図るとともに、進路実現に向けて指導体制の充実に取り組む。	① 朝学習（翠星タイム）を通して、学びの姿勢を身につけると共に、基礎学力向上が実感できるようになる。	教務課 各年次 各教科	【成果指標】 朝学習（翠星タイム）に取り組み、基礎学力を身につける。	翠星タイムを通して、基礎学力が向上したと思う生徒が A ９０％以上 B ７０％以上 C ５０％以上 D ５０％未満	B	よく身に付いた16.5% ある程度付いた60.1% 身についた合計76.6%	朝学習（翠星タイム）によって、基礎学力を身につけることができたかという問いに対し、「よく身に付いた」及び「ある程度身に付いた」と答えた生徒の割合が、7割を超えB判定となった。判定は、昨年度に引き続き同じだが、昨年度は一昨年度に比して10ポイント近く改善したが、今年度は一昨年度のレベルに戻った。学年別に見ると、「よく身に付いた」とした割合が1年生で90.3%と非常に高く、2年68.8%、3年71.2%となった。1年生では取組の様子が特に落ち着いているので、このような結果につながったのではないかと考える。他学年も、まず取り組む姿勢からの改善を提案していきたい。
	② 研究授業や互見授業を通して、授業における工夫・改善、効果的なICTの導入方法などを知ること、授業改善に積極的に取り組む。	教務課 各教科 全教員	【満足度指標】 分かりやすいと満足している生徒が増えている。	授業が「分かりやすい」と感じている生徒が A ９０％以上 B ７０％以上 C ５０％以上 D ５０％未満			授業が「分かりやすい」と満足している生徒の割合は、昨年度72.0%に対して、今年度は72.7%であった。昨年度と同様の水準を維持することができた。昨年度と異なり、本年度は学校行事も行いながらの授業をしているので、教員の授業に対する改善と工夫の積み重ねが結果として表れてきたと考えられる。今後とも、授業研究週間や公開授業等を積極的に活用し授業の改善と工夫を進めていく。
	③ 3年間を見通し、各年次に応じた計画的・自律的な学習を行い、明確な進路目標を持ち、その実現のための意欲が旺盛な生徒を育成する。	進路指導課 各年次 各学科	【成果指標】 就職や進学において、生徒の進路実現を図る。	各学年に応じて、明確に進路目標を掲げた生徒、進路実現を達成した生徒が A １００％である B ９７.５％以上１００％未満である C ９５％以上９７.５％未満である D ９５％未満である			R３年度当初明確な進路目標を掲げている生徒の百分率が 1年生84.7% 2年生87.6% 3年生96.6% 全体で90.1%

令和３年度 学校経営計画に対する中間評価実績書

石川県立翠星高等学校

No. 2

重点目標		具体的取組	主担当	評価の観点	達成度判断基準	判 定	集計結果	分析（成果と課題）及び来年度に向けて（改善策等）
3	社会人として必要な生活習慣や規範意識、他者への敬愛と協力を重んずる態度を育成する。	①生徒が自発的に挨拶を行うよう、全職員が始業・終業時の挨拶を統一して指導し、登校指導でも指導する。	生徒指導課 全教職員 各年次	【成果指標】 自発的に挨拶ができる生徒が増加している。	自発的に挨拶ができたと答えた生徒の割合は A ８０％以上 B ７０％以上 C ６０％以上 D ６０％未満	C	自発的に大きな声で挨拶ができた と答えた生徒が 66％	前期学校評価生徒アンケートの結果によると、いつも大きな声で挨拶をしていると答えた生徒が23％、少しずつ大きな声で挨拶していると答えた生徒が43％、挨拶はするが声はまだ小さいと答えた生徒が28％、ほとんど挨拶はしないと答えた生徒は6％となった。昨年度より、全職員が授業の始業・終業時の挨拶を統一して指導しており、その場面については声を出して挨拶できるようになってきていると感じている。しかし、登校時の挨拶についてはコロナ禍の中で大きな声で挨拶をするよう指導しづらい面もあり徹底できていない。姿勢だけでも正しくできるように今後も指導していきたい。
		②基本的な生活習慣の確立を目指し、遅刻や欠席者の減少に取り組む。	生徒指導課 全教職員 各年次	【成果指標】 基本的な生活習慣が身につく、遅刻者が減少している。	基本的な生活習慣が身に付いたと答えた生徒の割合が A ９０％以上 B ８０％以上 C ７０％以上 D ７０％未満			前期学校評価生徒アンケートの結果によると、しっかり身につけていると答えた生徒が44％、ある程度身につけていると答えた生徒が42％、少しは身につけていると答えた生徒が11％、身につけているとは決まっていえないと答えた生徒が2％となった。ほとんどの生徒が基本的な生活習慣が身につけていると答えている。しかし、遅刻したり服装の着こなしが悪い生徒が、目立ってしまう場面が見受けられる。今後も指導を徹底していきたい。
		③集会・HRなどにおいて「あり方・生き方」についての学習に取り組み、他者への敬愛と協力を尊重する態度を育てる。	生徒指導課 全教職員 各年次	【成果指標】 アンケート結果により、他者を敬愛する態度が育まれている。	どのような理由があろうとも、いじめは絶対に許されないととの質問に対して「あてはまらない」と回答した生徒の割合が A ３％未満 B ３％以上５％未満 C ５％以上７％未満 D ７％以上			5月・7月のいじめアンケート調査で、いじめは絶対に許されないの質問で「あてはまらない」と答えた生徒が3.7％となった。（1年生4％）、（2年生 3％）、（3年生 4.5％）コロナ禍の中で集会が開けない状態ではあるが、様々な場面を利用して他者への敬愛と協力を尊重する態度を育めるよう声掛けをしていきたい。また、啓発活動として生徒会執行部と協力して放送等で呼びかける機会を増やしていきたい。
4	タイムマネジメントに基づき、能率的な部活動や課外活動を推進し、活力ある学校づくりに取り組む。	①ガイドライン内の活動時間であっても、講習会、講演会などを積極的に取り入れ、効率的に部活動や研究会活動の活性化に取り組む。	特活課 農業クラブ 全教職員 各年次	【成果指標】 部や研究会活動などに積極的に活動する生徒が増加している。	部や研究会活動などに積極的に活動する生徒の割合は A ８０％以上 B ７０％以上 C ６０％以上 D ６０％未満	B	部や研究会に積極的に参加が 70.1％	コロナ禍の中で活動で各部・各研究会の活動に工夫を凝らして積極的に活動している。その結果、前年度のの新人大会と比較して、6月の高校総体では2回戦進出した部活動の数が増えた。各研究会も目標に向かって努力を続けている。また、農業クラブは来年度の全国大会に向けて、Onlineでの会議・研修などに積極的に取り組んでいる。
		②農業クラブ活動の内容を充実し、生徒の参加を通じて、その意義を理解させ、生徒の農業及び関連分野に対する関心及び学習意欲を高める。	農業クラブ 農業科 各研究会 各コース	【満足度指標】 農業クラブ活動への参加を通じて専門分野への学習意欲が高まった生徒が増加している。	農業クラブ活動への参加を通じて専門分野に対する学習意欲が高まった生徒の割合が、 A ７０％以上 B ６０％以上 C ５０％以上 D ５０％未満			生徒向けアンケートの結果によると「おおいに高まった」が19.5％、「ある程度高まった」が39.7％で合わせて59.2％となり、C判定となった。学校農業クラブ活動は農業科の学習指導要領に記載があり、農業科全体で実施していくものである。農業クラブの係としては今後も学校農業クラブ活動の活動を生徒に発信していくと同時に、農業科全体で盛り上げられるように努めたい。
		③統一的な取り組みや学校独自の多忙化改善を進めることで、時間外勤務時間の削減に取り組む。また次年度の効果的な取り組みのためにデータの分析・調査を進める。	全教職員	【成果指標】 働き方改革の意味合いを、職員が共有化し多忙化改善に向けた取り組みにより時間外勤務時間が減少する。	超過勤務ガイドライン上限45時間を下回る職員の割合が A ７５％以上 B ６０％以上７５％未満 C ５０％以上６０％未満 D ５０％未満			昨年度後期に比較すると若干減少しているが、今年度は、感染防止対策をしながらの学習活動及び部活動で、教職員はできる限りの工夫を行っていた。特に部活動は、感染防止策を講じながら例年と同じように大会が開かれ、若手教員を中心に、時間外勤務が多くなった。また、農業クラブ関連の業務も例年よりも増加したため、時間外の勤務が増加した。まん延防止等重点措置期間は、部活動の禁止もあり、大きく時間外勤務が減少した。後期は、部活動ガイドラインの徹底及び農業クラブ業務の協力体制を一層強化して時間外勤務の縮減に努めたい。